

熊本県IPM実践指標【露地ショウガ】

時期	管理項目	管理ポイント		
本ほ準備	栽培ほ場周辺での雑草管理	ほ場への雑草種子の持ち込みや雑草が発生源となる害虫の飛び込みを抑制するため、畦等の雑草防除に努める。		
	ほ場の選択と改善	水はけのよいほ場を選択し、低湿地のほ場での作付けは避ける。 他ほ場から雨水等の流入を防止するために、ほ場周囲の側溝を整備する。 ほ場の傾斜を考えて、ほ場全体で最も低い箇所に、排水口を設ける。		
	土壌病害対策	発生が考えられる土壌病害に応じた適切な土壌消毒（熱水、蒸気、土壌くん蒸等）を実施する。 被覆資材に低透過性フィルムを使用し、土壌くん蒸剤の処理量削減に努める。 土壌くん蒸剤を使用する場合は、予め被覆をして地温を高めてから処理する（10日以上）。		
	雑草の管理	ほ場内での雑草種子の増加を防ぐため、休閑中も定期的に耕起を行う。 多年草雑草は、地下茎まで抜き取り、適切に処分する。 前作およびほ場での雑草の発生状況、草種等を確認し、適切な除草剤を選定し処理する。		
植え付け前	適正な品種の選定	品質を考慮しながら作型にあった適正な品種を選定する。		
	健全種子の確保	病害虫に汚染されていない種ショウガを使用する。		
	種子消毒	病害虫に汚染された疑いのある種ショウガは温湯消毒で種子を消毒する。		
定植、収穫時期	定植作業	耕種基準に準じた適切な栽植密度で定植する。		
	排水対策	ほ場内に畝方向に対して垂直となるように排水溝をつくる。		
	雑草の管理	敷ワラを行い、雑草の発生を抑制する。		
	防除要否の判断		トラップ等を利用して害虫の発生状況の把握に努める。 ほ場の観察により病害虫の早期発見に努める。 気象予報などを考慮して防除の要否を判断する。	
		病害対策		被害株は早期に除去し、適切に処分する（根茎腐敗病）。 ほ場の傾斜、畝の方向、排水溝の位置と深さ、排水口の位置と大きさなどを記入したほ場図を作成し、病気の発生時期や箇所を書き込む。 発病前から生育期処理剤を全株に処理する（根茎腐敗病）。 管理作業機、靴等による病原菌（根茎腐敗病）の蔓延を防止するため、使用後は必ず洗浄するなどにより、土壌伝染を防ぐ。
			虫害対策	
	農薬の使用全般			
		病害対策		
			虫害対策	
	病害虫発生予察情報の確認			病害虫防除所が発表する発生予察情報を入手し、確認する。

時期	管理項目	管理ポイント
全般	作業日誌	各農作業の実施日、病害虫・雑草の発生状況、農薬を使用した場合の農薬の名称、使用時期、使用量、散布方法等の I P Mに係わる栽培管理状況を作業日誌として別途記録する。
	研修会等への参加	県や農業協同組合が開催する I P M研修会等に参加する。